

経済研究所 年報

第 23 号
April 2010

研究報告

日本国の原則—自由, 民主主義, 経済
発展, 戦争, 平和について考える

……………原田 泰

マクロ・バジェットिंगと
増税なき財政再建

—高橋財政の歴史的教訓—

……………井手 英策

21世紀は陸と海のたたかい

—アメリカ金融帝国の終焉と資本主義の誕生—

……………水野 和夫

世界恐慌と経済政策

—「開放小国」日本の経験と現代—

……………鎮目 雅人

文献解説

カルロス, F. R. およびセレスティーノ, R. E 共編

『メキシコにおける中小企業：

現状および戦略的挑戦』

……………中川 和彦

成 城 大 学

經 濟 研 究 所
年 報

第 23 号

成 城 大 学

巻 頭 の 辞

日本経済がバブル崩壊後、平成不況という長期的低迷状態に入り、かつデフレーションの進行という近年先進国では例のない経験が続けて、すでに20年もの月日が経ってしまっている。この間、21世紀に入り、世界的な景気拡大の中で、新興国が台頭し、世界経済の構図を確実に変化させてきた。米国の金融緩和と住宅バブルを背景に証券化ビジネスが高度に進行したあけく、リーマン・ショックをきっかけにして金融大崩壊がもたらされた後でも、この世界経済の構図は変わっていない。

新興国の台頭という構図は、実体経済からみても、それまで先頭を切つて来た先進国集団に資源大国と目される新興国が参入して経済成長の入り口に立ったということである。それも、人口規模で巨大な経済圏を有する新興国が入ってきたということであり、経済成長が加速化するにつれて、その経済圏が世界経済に大きな影響を持つことになるという点で、それまでの新規参入とは質的な違いをみせている。

さりながら、それら地域の経済をみていくと、経済成長のなかで物質生活が急速度で豊かになり、多様な消費が実現できるようになっているのであり、応じて企業も群生して商品を生産し、市場経済が活発化していく様子が観察される。市場経済は、交換のネットワークを通じて、現在では地球規模で消費者と生産者がつながるまでになっているが、その本質部分は依然として地域ごとに住んでいるひとびとの生活に根ざしている。接触しうる地理的範囲と発信・受信しうる情報の内容が飛躍的に拡大してきたとはいえ、ひとびとの生活に根ざす経済活動の内容は依然として地道で継続性のあるものである。当然ながら、必要となる資金を融通する金融も同質のものとなるが、この種の金融は市場経済を活性化し続けるには必要不可欠である。

それに対し、新興国においても経済が成長し、余剰資金が発生、集積していくにつれて、さらに利益を得るために成長を先食いする形で資産や資源などの購入に向けられるようになる。それを助長するように資金調達が図られ様々な金融ビジネスがうまれてくる。そこに資本主義を象徴する活動がみられるので

あり、先進国、新興国ともに24時間連携し資金が国際的に移動する。

このような階層構造は、もともとブローデルが近世経済を描くために提示したものであるが、現在においても速度と範囲が大幅に拡大したとはいえ基本的に変わっていないと思われる。ということは、市場経済に根ざした金融活動とその固有の制度は、対応した実体的経済活動の反映であり、物質的水準の格差と固有の文化・慣習の違いを映し出したものである。その意味で経済発展段階の異なる、しかし相互に接触しうる国々の市場経済に根ざした金融のありかたを比較制度の視点から探ることは、依然として価値があると思われる。

このようなことを書いたのは、当経済研究所において昨年度に新しいプロジェクトが立ち上がり、その意義を自画自賛ながら紹介したかったからにほかならない。「環太平洋における中小企業金融ならびに政府支援」がそれであり、環太平洋地域という先進国と新興国・発展途上国を含めたエリアを対象にして、中小企業への金融のあり方と政府の関与の仕方を探ろうという試みである。メキシコについては、グダラハラ大学との学術交流を通じて、先行していることは前号で触れたとおりである。他の地域も含めて、このプロジェクトが成長して多様な成果を生み出すことを期待したい。

さらに、この関係で日本の位置はきわめて重要である。いち早く成長し成熟した日本の経験とその未来像は、環太平洋諸国にとっても興味深いものである。本号は、このテーマに関連させて、原田泰氏、井出英策氏、水野和夫氏、鎮目雅人氏にご講演していただき、その後執筆していただいた論文を掲載している。ご多忙の中、先生方には執筆にご協力いただき、改めて感謝申し上げます次第である。また、メキシコの中小企業に関わる文献を中川和彦先生に解説していただいた。原文はスペイン語のため、なかなか日にすることのできない内容であり、前述のプロジェクトだけでなく、関連分野の研究者の方々にも参考になればと勝手ながら思っている次第である。

2010年4月

成城大学経済研究所長

明 石 茂 生

目 次

巻頭の辞	明石茂生	1
研究報告		
日本国の原則—自由，民主主義，経済発展， 戦争，平和について考える	原田 泰	5
マクロ・バジェットイングと増税なき財政再建 —高橋財政の歴史的教訓—	井手英策	35
21世紀は陸と海のたたかい	水野和夫	55
～アメリカ金融帝国の終焉と資本主義の誕生～		
世界恐慌と経済政策 —『開放小国』日本の経験と現代—	鎮目雅人	73
文献解説		
カルロス・フォング・レイノーソおよび セレスティーノ・ローブレス・エストラーダ共編 『メキシコにおける中小企業：現状および戦略的挑戦』	中川和彦	93
研究所だより		103
前号目次・編集後記		107
「経済研究所年報」刊行一覧		108

研究所だより

◆会議

運営委員会

平成21年度

第1回 平成21年5月14日(木)

第2回 平成21年10月29日(木)

第3回 平成22年2月25日(木)

所員会議

平成21年度

第1回 平成21年4月21日(火)

第2回 平成21年10月20日(火)

第3回 平成22年2月20日(土)

企画委員会

平成21年度

第1回 平成21年6月2日(火)

第2回 平成21年10月1日(木)

第3回 平成22年3月3日(水)

◆研究報告会

第67回

日時 平成21年6月13日(土)

<第1部>

講演者 井手英策氏(慶應義塾大学経済学部准教授)

演題 「恐慌からの脱出と財政再建への苦闘…高橋財政期の火藏省統制」

(本号に「マクロ・バジエッティングと増税なき財政再建—高橋財政の歴史的教訓—」として掲載)

<第2部>

講演者 原田泰氏(株大和総研専務理事 チーフエコノミスト)

演題 「日本国の原則—自由、民主主義、経済発展、戦争、平和について考える」

(本号に掲載)

第67回

日時 平成21年12月5日(土)

<第1部>

講演者 鎮目雅人氏(日本銀行金融研究所企画役)

演題 「世界恐慌と経済政策—「開放小国」日本の経験と現代—」

(本号に掲載)

<第2部>

講演者 水野和夫氏(三菱UFJ証券チーフエコノミスト)

演題 「21世紀は陸と海のたたかい—アメリカ金融帝国の終焉と資本主義の誕生—」

(本号に掲載)

◆ミニ・シンポジウム

第1回

日時 平成21年7月14日(火)

発表者 数阪孝志氏(神奈川大学経済学部教授)

題目 「地銀決算にみる地域金

融の問題点」

◆日墨学術交流ミニ・シンポジウム

第2回

日 時 平成21年7月22日(水)
 発表者 柳沢まどか氏(一橋大学
 大学院経済学研究科ジュ
 ニア・フェロー)

題 目 「1920年代ドイツ都市に
 おける非営利住宅建設・
 住宅政策の展開—ゾーリ
 ンゲン市の事例を中心
 に—」

日 時 平成21年11月17日(火)
 (1) 発表者 カルロス・フォング・レ
 イノソ氏(グアダラハ
 ラ大学経済経営学部教
 授・同学部附属地域研究
 所)

題 目 「メキシコの中小企業、
 成功企業設立のモデル：
 ガゼル、ホーングローバ
 ルならびにスピノフ企
 業」(通訳)

第3回

日 時 平成21年12月1日(火)
 発表者 立川潔氏(本学経済学部
 教授)

題 目 「ルナ・ソサエティと S.
 T. コウルリッジ」

(2) 発表者 岡部拓氏(グアダラハラ
 大学経済経営学部教授・
 同学部附属地域研究所・
 本学法学研究科博士課程
 後期修了)

題 目 「企業金融促進に向けた
 メキシコの企業統治制度
 —2006年新証券取引法と
 その効果—」

第4回

日 時 平成22年1月19日(火)
 発表者 林信明氏(花園大学社会
 福祉学科教授)

題 目 「19世紀前半のフランス
 社会救済事情」

◆刊行物

長期プロジェクト報告として以下の
 書物を刊行した。

第5回

日 時 平成22年3月4日(木)
 発表者 村地保氏(鹿島建設(株)開
 発事業本部 PFI 推進部
 部長)

題 目 「社会資本整備にみる
 PFI (Private Finance Ini-
 tiative) の動向」

大岡聡著(日本大学法学部准教
 授)

「昭和戦前・戦時期の百貨店と
 消費社会」

(経済研究所研究報告 No. 52)

前 号 目 次

研 究 報 告

明治大正の投資家社会	寺 西 重 郎.....	5
2003年以降における中小企業の 経営財務面での動きをめぐって	鹿 野 嘉 昭.....	53
—CRD の分析結果から—		
イスラム金融—国際金融界の新潮流	吉 田 悦 章.....	77
グローバルにおける住宅金融の急展開と混乱	内 田 真 人.....	89
スコアリング貸出の課題—新銀行東京を例に	南 里 光 一 郎.....	109
	平 田 英 明	

編 集 後 記

成城大学経済研究所年報第23号が刊行のはこびとなった。当研究所では昨年度、2回の講演会と6回のミニシンポジウムを開催した。講演会では、100年に1度とも言われた金融経済危機の中、大和総研常務理事の原田泰氏から「日本国の原則」、慶応義塾大学の井手英策先生から「恐慌からの脱出と財政再建への苦闘」（以上6月）、日本銀行の鎮目雅人氏から「世界恐慌と経済政策」（12月）と、歴史的な視点を踏まえたお話いただいた。現在日本が直面している問題も過去の経験と無関係ではないとの認識を強くした次第である。また、三菱UFJ証券チーフエコノミスト水野和夫氏からは12月の講演会で「21世紀は陸と海とのたたかい」のテーマで、今後の日本経済の方向性について大きな見通しを分析して頂いた。このほか、11月にメキシコグアダハラ大学から F. R. カルロス先生、岡部拓先生を招いてミニシンポジウムを開催したのも刺激的な経験だった。同大学の先生方の文献については、本学名誉教授でメキシコ研究ご専門の中川和彦先生に解説をお願いした。本号はそうした活動の記録である。お忙しい中、ご協力いただいた学内外の諸先生方に厚くお礼申し上げます。

本年度は「都市：福祉と経済」、「イノベーションシステムのガバナンス」という2つのプロジェクトに加えて、新たにグアダハラ大学との交流も発展させる目的で、「環太平洋地域における中小企業金融ならびに政策支援」を立ち上げることになった。それぞれのプロジェクトで優れた研究成果を挙げ、研究所の活動をより活性化させていくため、所員を含め関係者の方々の一層のご協力をお願いしたい。（内田記）

THE ANNUAL BULLETIN
of
The Institute for Economic Studies

No. 23

April 2010

CONTENTS

Preface	1
Articles	
Principles of Japan-On Freedom, Democracy, Economic Development, War and Peace	Yutaka HARADA..... 5
Macro Budgeting and Fiscal Reconstruction without Tax Increase-Historical Lessons from Takahashi Economic Policy-	Eisaku IDE..... 35
21st Century will be a Battle across Land and Sea ~End of the US Financial Empire and the Birth of Capitalism~	Kazuo MIZUNO..... 55
The World Depression and Economic Policy: Lessons from Interwar Japan as A Small, Open Economy	Masato SHIZUME..... 73
Book review	
Carlos Fong Reynoso y Celestino Robles Estrada (compiladores), La Pyme en México, Strucción actual y retos estratégicos.	Kazuhiko NAKAGAWA..... 93
Communications	103

The Institute for Economic Studies
Seijo University